

園児が土壌改良作業

北海道ストロベリープロモーション所有の畑で

子どもたちと地域が農業を通じた交流

子どもたちと地域の人々土壌改良の作業を浦河の。米の外皮であるもみ殻や鶏糞肥を使った土壌改良に取り組み中。5つの企業団体が協働し、24人がお手伝いした。北海道ストロベリープロモーションが所有する向ヶ丘東2の畑で行われ、もみ殻やたい肥を撒き、もみ殻撤きに取り組み園児たち

子どもたちと地域の人々土壌改良の作業を浦河の。米の外皮であるもみ殻や鶏糞肥を使った土壌改良に取り組み中。5つの企業団体が協働し、24人がお手伝いした。北海道ストロベリープロモーションが所有する向ヶ丘東2の畑で行われ、もみ殻やたい肥を撒き、もみ殻撤きに取り組み園児たち



用したもみ殻は、園児と園児24人と一緒に土壌改良の農作業に取り組み中。米の外皮であるもみ殻や鶏糞肥を使った土壌改良に取り組み中。5つの企業団体が協働し、24人がお手伝いした。北海道ストロベリープロモーションが所有する向ヶ丘東2の畑で行われ、もみ殻やたい肥を撒き、もみ殻撤きに取り組み園児たち

くもみ殻について説明したほか、浦河へての家のメンバーが手作り紙芝居「土のおはな」で、園児たちに「土も元気になるために栄養が必要」ともみ殻やたい肥を撒くことの大切さを伝えた。園児たちは、畑のあちからびらに山になって置かれていたもみ殻に両手を入れてすくい上げるように振りました。園児たちは「もみ殻を撒くのはすごく楽しかった。土が元気になった。元気な野菜が育つ」ともみ殻やたい肥を撒くことの大切さを伝えた。

土壌改良後の畑の利用は、作物の栽培と商品化による地域活性化や教育の場としての活用を目指していく考えだ。

この日、土壌改良に使